

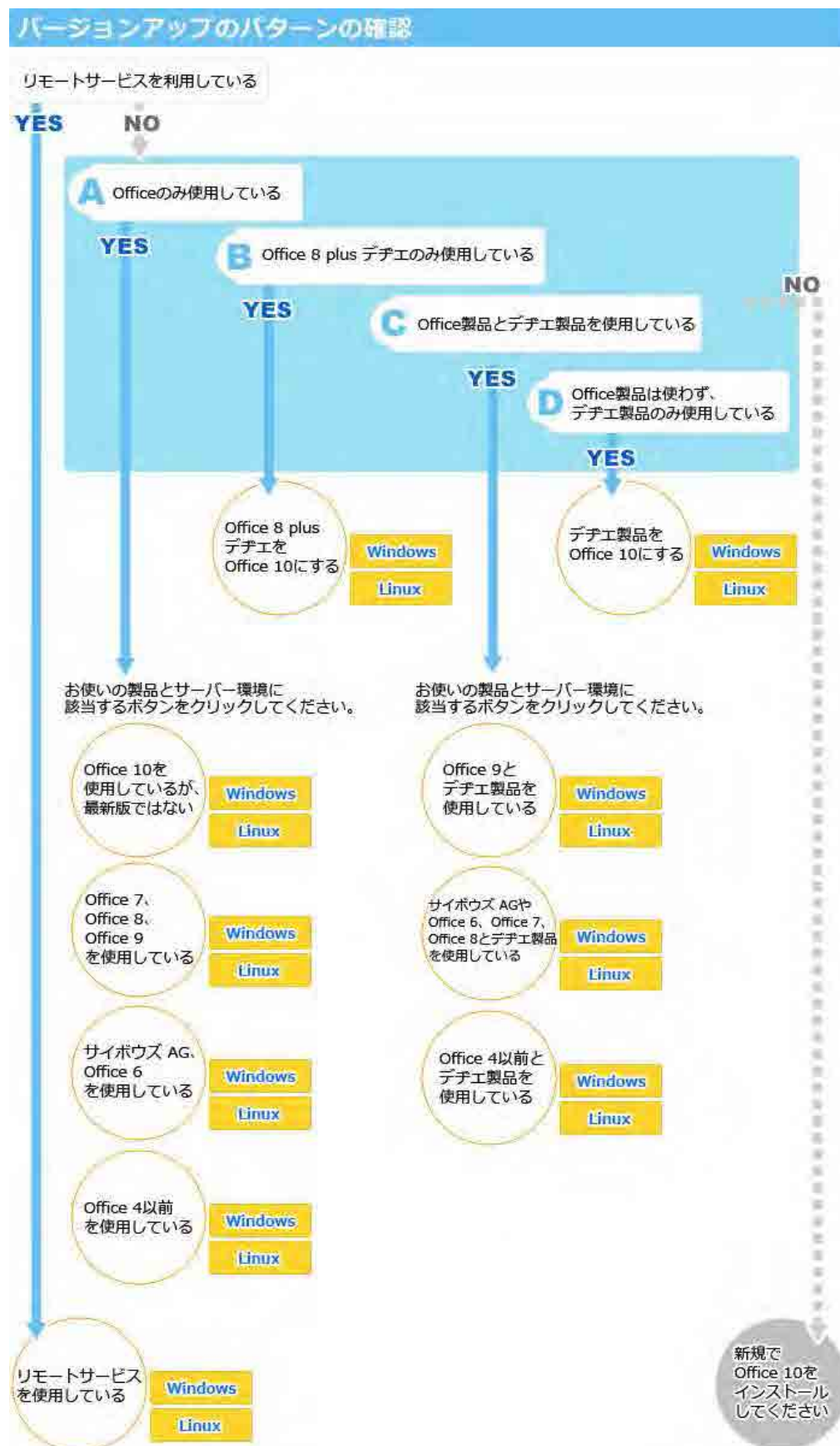
Office 10 パッケージ版 バージョンアップ

バージョン 10.0.2

バージョンアップ

お使いの Office製品またはデヂエ製品を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。

■ バージョンアップの 패턴の確認



Windowsの場合

Windows環境で運用している環境をOffice 10にバージョンアップする手順を説明します。

バージョンアップの前に確認すること

バージョンアップ作業の前に確認する項目について説明します。

はじめに確認すること

Office 10にバージョンアップする前に、次の項目を確認します。

項目	説明
ユーザーの権限	バージョンアップする際に、次のユーザーでサーバーマシンにログインする必要があります。 ローカルのAdministrator権限を持つユーザー
サーバーマシンやネットワークの環境	お使いのサーバーマシンやネットワーク環境が動作環境と合っていることを確認します。 製品サイト：動作環境
サーバーマシンの設定日時	サーバーマシンの設定日時が、正しいかどうかを確認します。 日時が正しく設定されていないと、正常に動作しない恐れがあります。
常駐アプリケーションやプロセス	サーバーマシンで、アプリケーションのプロセスやWindowsプログラムが終了していることを確認します。 常駐アプリケーションやプロセス等が起動している場合は、すべて終了してください。
お使いの環境にあったバージョンアップ方法	お使いの製品や利用環境によって、バージョンアップの手順は異なります。次のチャートを参照し、お使いの環境にあったバージョンアップ手順を参照してください。 バージョンアップのパターンの確認

バックアップデータ

Office 10にバージョンアップすると、バックアップが必要なファイルが、次のいずれかのフォルダに自動的にバックアップされます。

- (インストールディレクトリ)\%odbxbackup[バージョンアップ日時]
- (インストールディレクトリ)\%odbbackup[バージョンアップ日時]

ただし、万が一のトラブルに備え、バージョンアップ前のデータを手動でバックアップすることを推奨します。

[バックアップ](#)

バージョンアップすると、既存のテンプレートファイルは、次のフォルダに自動的にバックアップされます。
(インストールディレクトリ)\%cb5¥page¥backup

ドライブの空き容量

バージョンアップするドライブのディスク容量が基準に満たない場合、バージョンアップが中止されます。
バージョンアップの前にドライブの空き容量が十分であるかどうかを確認してください。

バージョンアップに必要な容量は、次のとおりです。

バージョンアップ前の製品		
Office製品単体	Office 9以降	100MB + Officeのdataディレクトリ
	Office 8以前	100MB + Officeのdataディレクトリの半分の容量
デヂエ製品単体		100MB + (デヂエのdataディレクトリ + デヂエのfileディレクトリ) + デヂエのdataディレクトリの半分の容量
Office製品とデヂエ製品		100MB + (デヂエのdataディレクトリ + デヂエのfileディレクトリ) + デヂエのdataディレクトリの半分の容量
Office 8 plus デヂエ		半分の容量 + Officeのdata ディレクトリの半分の容量

旧版からの変更点

デジエ製品、またはOffice 9以前からOffice 10にバージョンアップする場合に、大きく変更される項目について紹介します。
新機能の紹介については、製品サイトで案内しています。

☐ 製品サイト：[「サイボウズ Office 10」の新機能](#)

■ メールの独立

Office 10にバージョンアップすると、メールが個人フォルダから独立します。

更新通知や振り分け保存の設定はそのまま引き継がれます。

■ デジエのデータの保存先

次の製品を Office 10にバージョンアップすると、「デジエ」のデータは「カスタムアプリ」に保存されます。

- Office 8以前のOffice製品とデジエ製品
- Office 8 plus デジエ
- デジエ製品

■ ケータイ

ケータイ機能もOffice 10仕様にバージョンアップされます。

Office 10のライセンスキーを準備する

次のどちらかの製品からOffice 10にバージョンアップする場合は、Office 10のライセンスキーが必要です。

- デジエ製品
- Office 9以前のOffice製品

ライセンスキーは、バージョンアップライセンスの発注、または、無償バージョンアップの申込をすると取得できます。

ライセンスキー発行は時間が掛かる場合があります。

バージョンアップの作業をする前に、お客様の利用状況に合わせて、必要な申し込みをしてください。

☐ バージョンアップライセンスと無償バージョンアップのどちらが必要か

製品サイトで詳しく案内しています。

☐ 価格／見積／購入：[旧バージョンを利用中の方](#)

☐ 無償バージョンアップが必要な場合

製品サイトの案内を見て、無償バージョンアップの申し込みが必要な方は、次のWebページから手続きをします。

☐ [無償バージョンアップの申込フォーム](#)

「よくあるご質問」でもライセンスに関する案内をしています。

☐ よくあるご質問：[サービスライセンス契約中ですが、無償バージョンアップは申し込みが必要ですか？](#)

Office 10のインストーラーを入手する

最新のインストーラーを次のページからダウンロードし、バージョンアップ先のサーバーマシンに保存します。

☐ 製品サイト：[ダウンロード](#)

お使いのOffice 10を最新版にする

お使いのOffice 10を最新版にバージョンアップする手順を説明します。

バージョンアップする

次の場合を例に説明します。

- お使いのOffice 10を最新版にする。
- Windows環境：Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子：cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ
- データディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄、「Dir」欄、および「UserDir」欄で確認できます。

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
UserDir	C:\cybozu\office\cbag\ データディレクトリ	サーバーマシン上でのデータ ディレクトリの絶対パス
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag\ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

「実行環境の診断」画面の詳細は、次のページを確認してください。

バージョン	マニュアル	表記例
Office 10	サーバーの環境を確認する	WebサーバーにIISを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbag ● CGI ディレクトリ C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ C:\inetpub\wwwroot ● データディレクトリ C:\cybozu\office\cbag

3. スケジューリングサービスを停止します。

手順11で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスを停止する](#)

4. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。

- 「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

[メンテナンス時間を設定する](#)

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

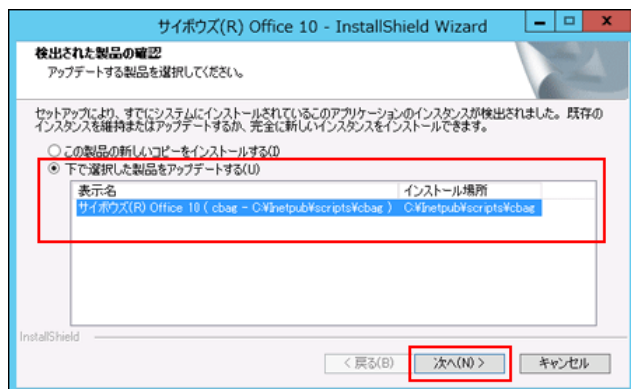
製品	バックアップの対象となるデータ
Office 10	● (データディレクトリ)/cb5/data ● (データディレクトリ)/cb5/file

6. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.〇.〇-windows-k〇.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

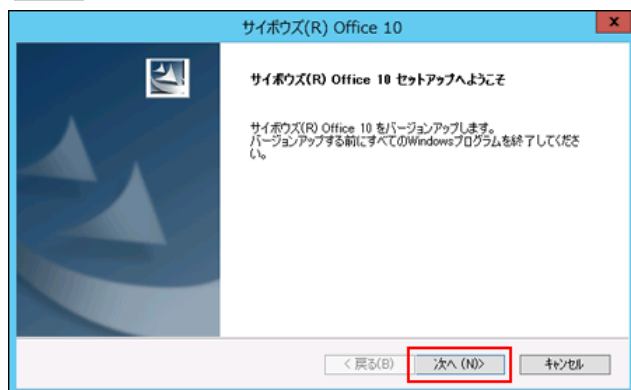
次のサーバOSをお使いの場合は、「cbof-10.〇.〇-windows-k〇.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

7. 「下で選択した製品をアップデートする」を選択し、バージョンアップする製品を選択して、[次へ](#) をクリックします。

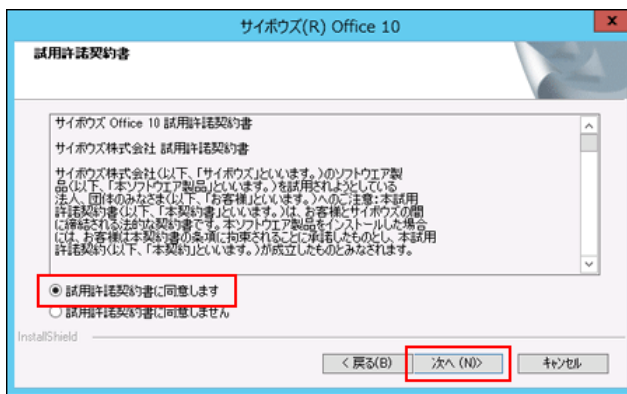


8. [次へ](#) をクリックします。

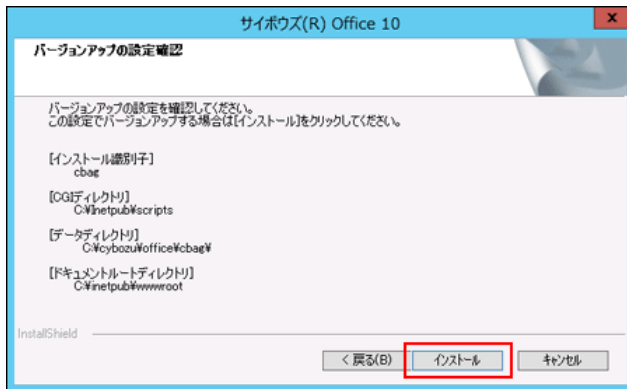


9. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、[次へ](#) をクリックします。

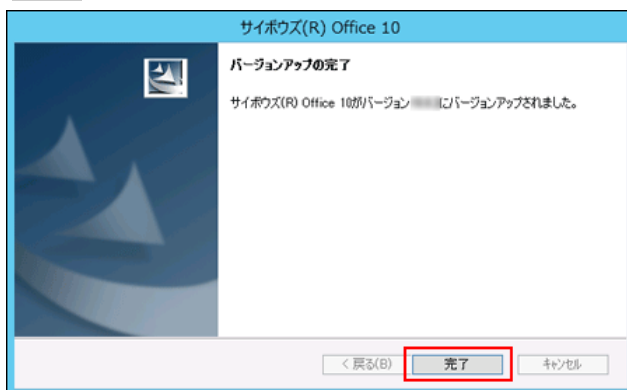
- 試用許諾契約書に同意しない場合 :
[キャンセル](#) をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合 :
[戻る](#) をクリックします。



10. 設定を確認し、インストール をクリックします。



11. 完了 をクリックします。



バージョンアップ後の作業に進みます。

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

(データディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザーを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe?

		● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIP アドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. サイボウズ Office1にログインし、動作を確認します。

 [ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

リモートサービスを使用している場合

リモートサービスを使用している場合は、Office 10にバージョンアップしたあと、リモートサービスマネージャーで利用製品の情報更新や再登録が必要です。Office製品だけをバージョンアップしただけでは、リモートアクセスした際に画像やアイコンが表示されないことがあります。

 [よくあるご質問](#)

Office製品のみ利用している場合

Office製品のみお使いの場合は、次のステップで作業します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step2

Office製品をOffice 10にバージョンアップします。

-  Office 10 : [Office 7~Office 9をOffice 10にする](#)
-  Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする](#)
-  Office 10 : [Office 4以前の製品をOffice 10にする](#)

Step3

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step4

リモートサービスマネージャーに登録しているOffice製品の情報を更新します。

 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

デヂエ製品のみ利用している場合

デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップすると、バージョンアップ前とバージョンアップ後で製品のアクセスURLが変わります。このため、バージョンアップ後のOffice 10をリモートサービスに登録する必要があります。バージョンアップ前のデヂエ製品のリモートアクセスのURLは利用できません。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step2

デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップします。

 Office 10 : [デヂエ製品をOffice 10にする](#)

Step3

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step4

リモートサービスマネージャーに登録しているデヂエ製品の情報を、Office 10に更新します。

 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

リモートサービスの利用ユーザーに、新しいアクセスURLを連絡します。

Step5

Office 8 plus デヂエを利用している場合

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップすると、「plus デヂエ」のデータがOffice側に取り込まれます。これにより、バージョンアップ後はリモートサービスマネージャーのデヂエの登録情報は利用できないため、Step5で削除します。

リモートサービスのアクセスURLは、Office製品のアクセスURLのみ、引き続きを利用できます。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

📄 Office 10のライセンスキーを準備する

Step2

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

📄 Office 10 : [Office 8 plus デヂエをOffice 10にする](#)

Step3

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

📄 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step4

リモートサービスマネージャーに登録しているOffice 8の情報をOffice 10に更新します。

📄 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

Step5

リモートサービスマネージャーから、デヂエ製品の登録情報を削除します。

📄 リモートサービス : [サイボウズ製品を削除する](#)

Step6

リモートサービスの利用ユーザーに、Step4で更新したOffice 10のリモートアクセスURLのみ利用できることを連絡します。

Step5で削除したデヂエのリモートアクセスURLは利用できません。

Office 8 以前とデヂエ製品を利用している場合

Office 8以前のOffice製品とデヂエ製品の両方を運用している場合の手順を説明します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です

📄 Office 10のライセンスキーを準備する

Step2

デヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

📄 デヂエ 8 : [バージョンアップする](#)



- Step2は、現在Office製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携し、Office 10にバージョンアップした後も、デヂエを引き続き利用する場合のみ必要な作業です。

Office 8以前のOffice製品をOffice 10にバージョンアップします。

Step3

デチ工製品のデータがOffice側に取り込まれます。

Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6～8とデチ工製品をお使いの場合](#)



- Office製品とデチ工製品でユーザー情報を連携していない場合は、Office製品とデチ工製品で、各ユーザーの「ログイン名」と「グループ名」を一致させてからバージョンアップしてください。

Step4

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step5

リモートサービスマネージャーで、Office 8の登録情報画面を表示し、製品情報をOffice 10に更新します。

リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

Step6

リモートサービスマネージャーで、デチ工製品の登録情報画面を表示し、製品情報を更新します。

リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

サイボウズ AGやOffice 6～Office 9をOffice 10にする

サイボウズ AG、Office 6、Office 7、Office 8、Office 9 を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。

Office 7～Office 9をOffice 10にする

Office 7、Office 8、またはOffice 9 をOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Windows環境 : Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子 : cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGI ディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

DocumentRoot	C:¥inetpub¥wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:¥inetpub¥scripts¥cbag¥ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
Office 7	「Office 7」の実行環境を確認する	WebサーバーにIISを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbag ● CGIディレクトリ： C:¥inetpub¥scripts ● インストールディレクトリ： C:¥inetpub¥scripts¥cbag ● ドキュメントルートディレクトリ： C:¥inetpub¥wwwroot
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	
Office 9	製品の実行環境を確認する	

3. スケジューリングサービスを停止します。

手順13で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスを停止する](#)

4. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。
「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
Office 7	メンテナンス時間を設定する
Office 8	メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

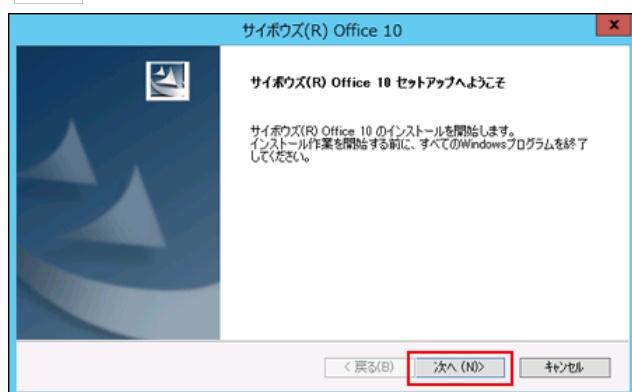
製品	バックアップの対象となるデータ
Office 7	• (インストールディレクトリ)/cb5/data • (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 8	
Office 9	

6. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバ-OSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

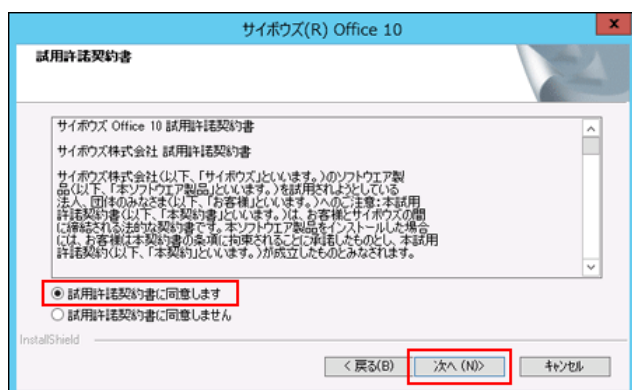
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

7. [次へ](#) をクリックします。

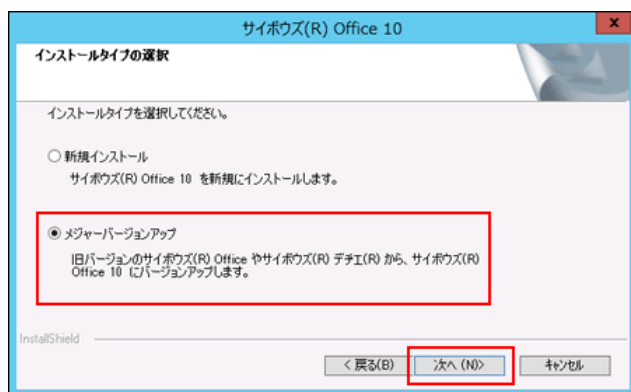


8. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、[次へ](#) をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合：
[キャンセル](#) をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
[戻る](#) をクリックします。

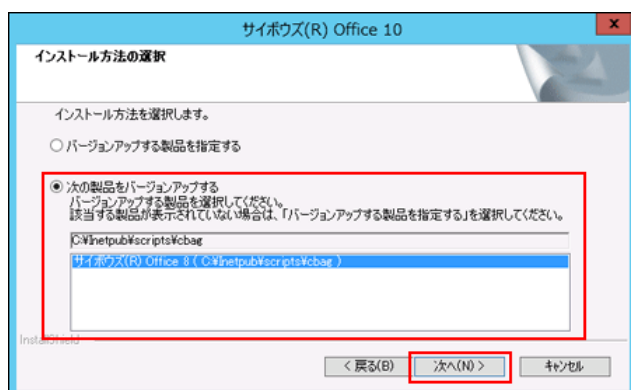


9. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、[次へ](#) をクリックします。



10. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、**次へ** をクリックします。

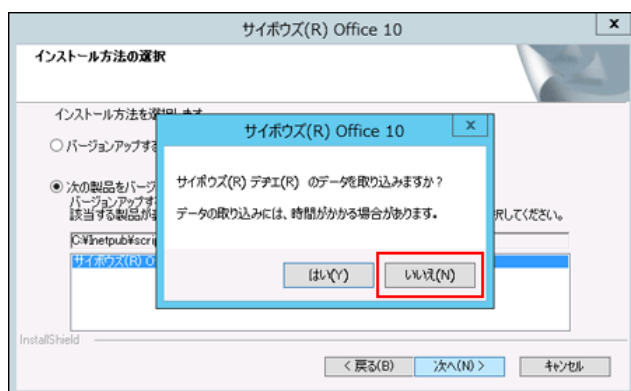
該当する製品が表示されない場合は、「バージョンアップする製品を指定する」を選択し、インストール識別子、CGIディレクトリ、ドキュメントルートディレクトリを指定してください。



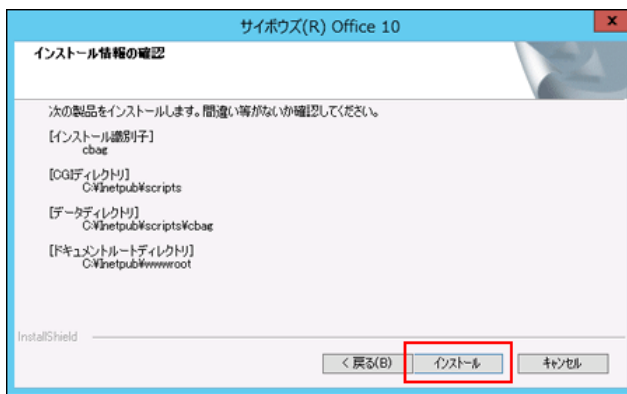
- Office 9をOffice 10にする場合：
手順12に進みます。
- Office 7またはOffice 8をOffice 10にする場合：
手順11に進みます。

11. 「デチエのデータ取り込み」確認ダイアログで、**いいえ** をクリックします。

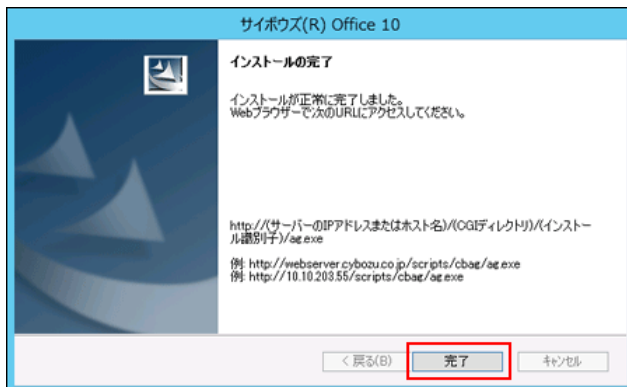
Office 9をOffice 10にする場合、次のダイアログは表示されません。手順11の操作は不要です。



12. 設定を確認し、**インストール** をクリックします。



13. 完了 をクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

[📁 バージョンアップ後の作業](#)

サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする

サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Windows環境 : Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子 : cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[📁 バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir欄」で確認できます。

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメントルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag¥ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
サイボウズ AG	サイボウズ AGの実行環境の診断	WebサーバーにIISを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbag ● CGIディレクトリ： C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ： C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ： C:\inetpub\wwwroot
Office 6	サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断	

3. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
サイボウズ AG	メンテナンス時間の設定
Office 6	メンテナンス時間の設定

4. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

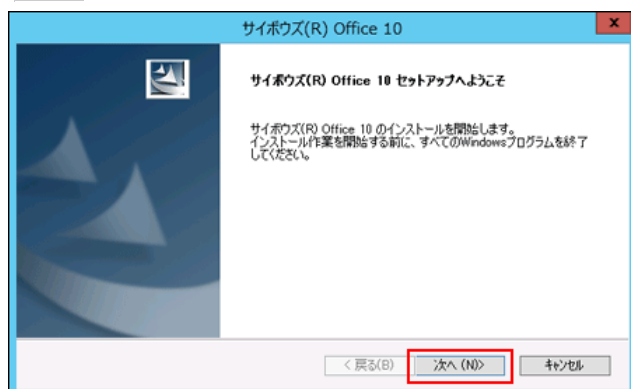
製品	バックアップの対象となるデータ
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data
Office 6	● (インストールディレクトリ)/cb5/file

5. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバーOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

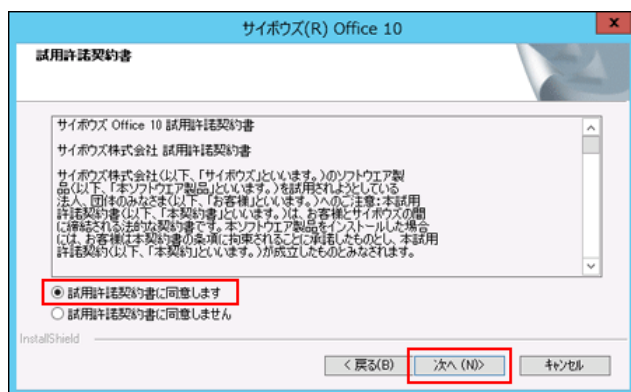
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

6. をクリックします。

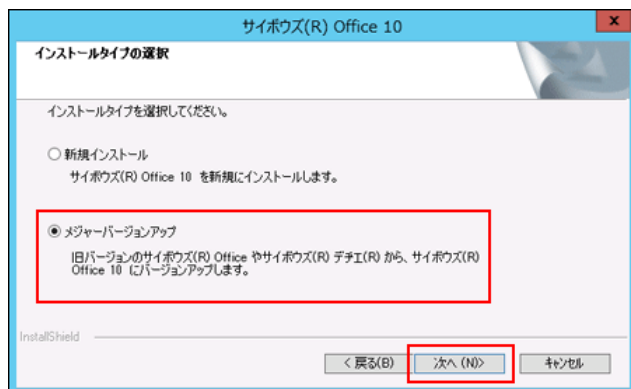


7. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、 をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合：
 をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
 をクリックします。

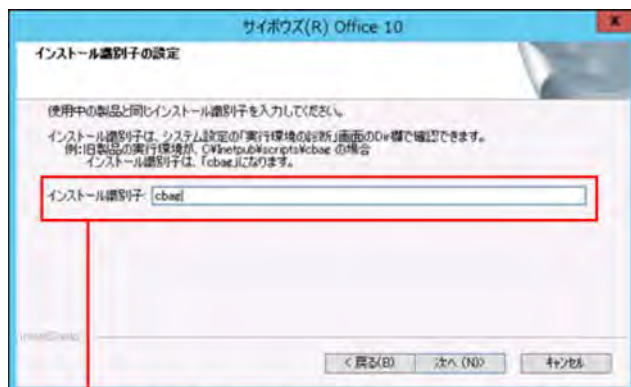


8. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、**次へ** をクリックします。



9. インストール識別子を確認し、**次へ** をクリックします。

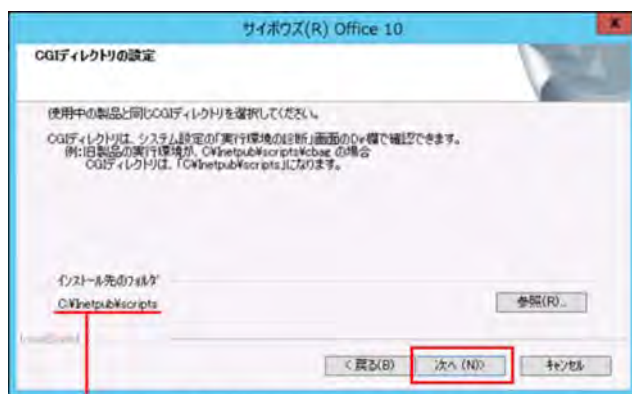
手順2で確認したインストール識別子と同じであることを確認します。



バージョンアップ前の製品と同じインストール識別子であることを確認します。

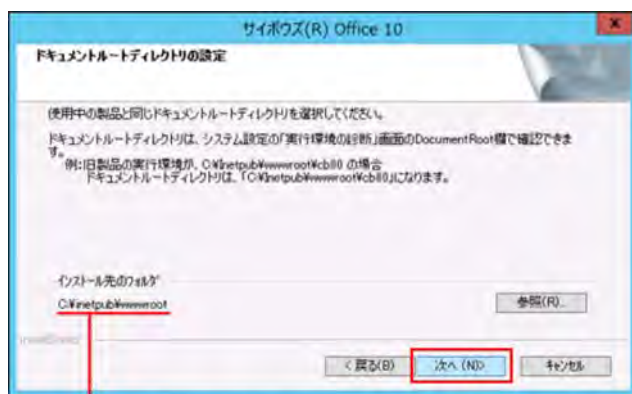
10. CGIディレクトリを確認し、**次へ** をクリックします。

手順2で確認したCGIディレクトリと同じであることを確認します。

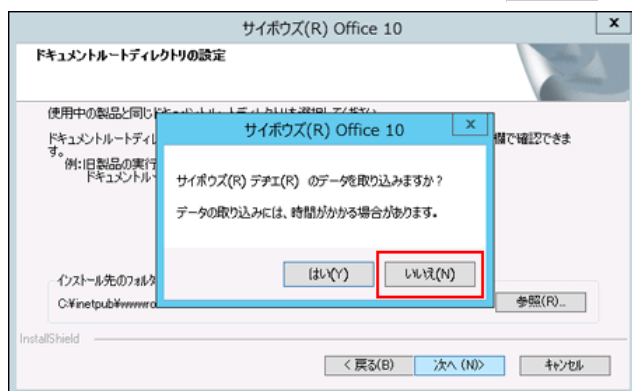


11. ドキュメントルートディレクトリを確認し、次へ をクリックします。

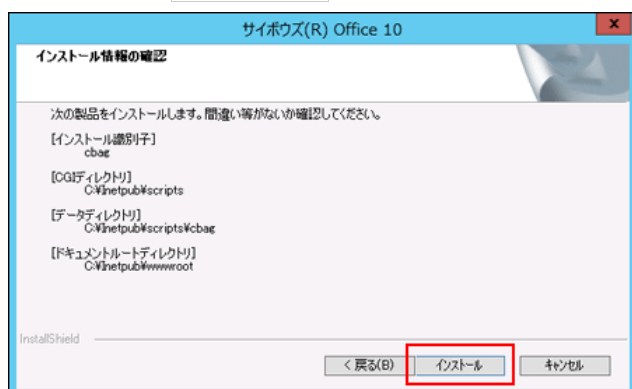
手順2で確認したドキュメントルートディレクトリを同じであることを確認します。



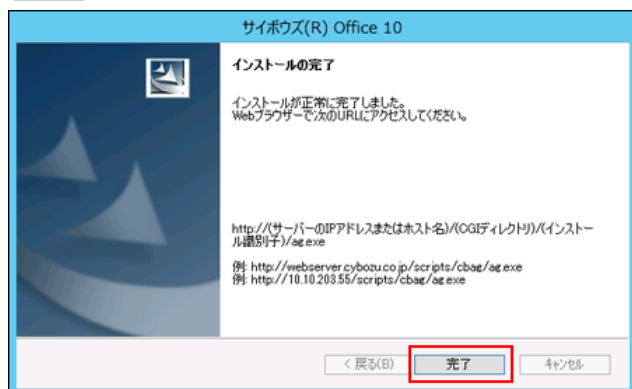
12. 「デチエのデータ取り込み」確認ダイアログで、いいえ をクリックします。



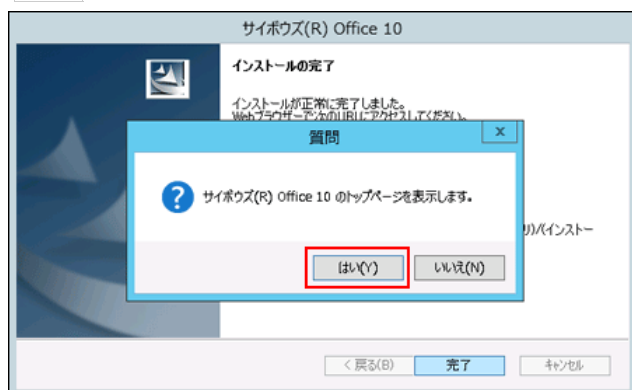
13. 設定を確認し、インストール をクリックします。



14. **完了** をクリックします。



15. **はい** をクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

[バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

メンテナンス時間内の場合、エラーが表示されます。
(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. サイボウズ Office1にログインし、動作を確認します。

 [ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

4. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

 [ライセンスを登録する](#)

Office 4以前の製品をOffice 10にする

Office 4以前の製品をOffice 10にバージョンアップするには、お使いの環境を一度Office 6にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップする必要があります。

次のステップで作業します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step2

Office 4以前の製品を、Office 6にバージョンアップします。

 Office 6 : [サイボウズ Office 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step3

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

 Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする](#)

デチ工製品をOffice 10にする

単体で運用しているデチ工製品をOffice 10にバージョンアップします。

デチ工のライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- デチ工製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.exe」がリンク切れになる。
 - カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

バージョンアップする

デチ工製品をOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- デチ工 8（バージョン 8.0.7）からバージョンアップする。
- Windows環境：Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子：cbdb

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのデチ工製品で次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbdb\% CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
DBメーカー	実行環境の診断	WebサーバーにIISを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbdb ● CGIディレクトリ： C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ： C:\inetpub\scripts\cbdb
デチ工 3	システム実行環境の診断	
デチ工 4	システムの実行環境の診断	
デチ工 5	システムの実行環境の診断	
デチ工 6	システムの実行環境の診断	

デヂエ 8	 システムの実行環境の診断	ドキュメントルートディレクトリ： C:¥inetpub¥wwwroot
-------	--	---

3. お使いのデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
DB メーカー	メンテナンス時間の設定は、デヂエ 4以降に搭載された機能です。
デヂエ 3	デヂエ 3以前からバージョンアップする場合は、ユーザーがデヂエにアクセスできない状態にし、手順4に進みます。
デヂエ 4	 メンテナンス時間の設定
デヂエ 5	 メンテナンス時間の設定
デヂエ 6	 メンテナンス時間の設定
デヂエ 8	 メンテナンス時間の設定

4. バージョンアップ前のデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

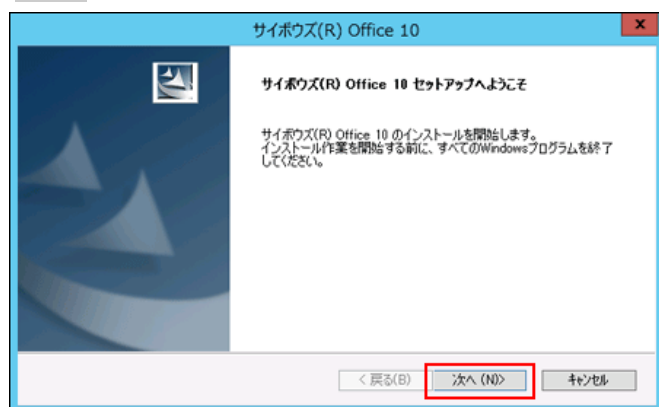
製品	バックアップの対象となるデータ
DBメーカー	(インストールディレクトリ)/data (インストールディレクトリ)/file
デヂエ 3	
デヂエ 4	
デヂエ 5	
デヂエ 6	
デヂエ 8	(インストールディレクトリ)/dze/data (インストールディレクトリ)/dze/file

5. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバーOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

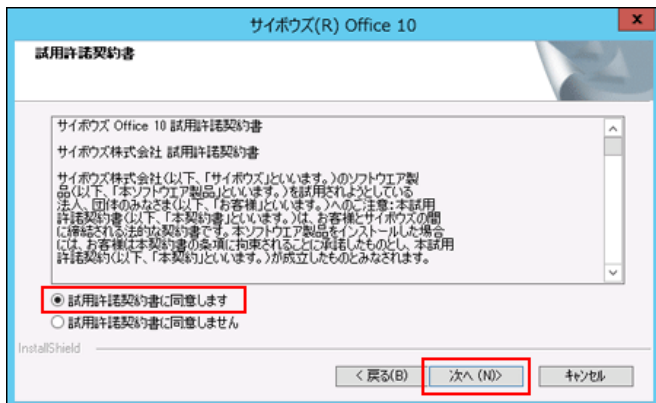
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

6. **次へ** をクリックします。

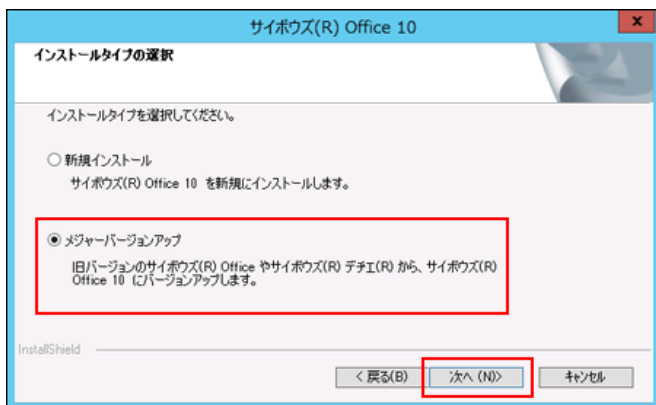


7. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、**次へ** をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合：
キャンセル をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
戻る をクリックします。

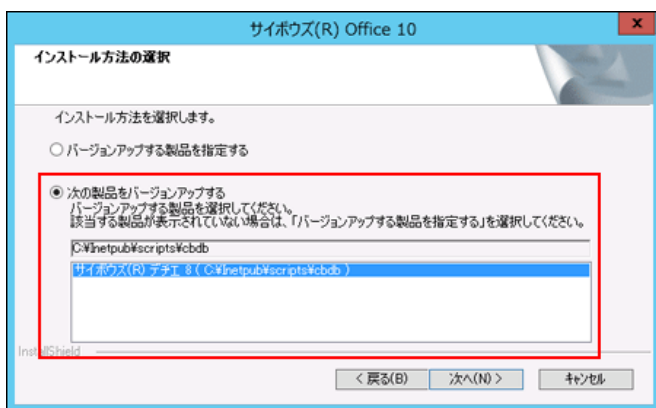


8. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、**次へ** をクリックします。

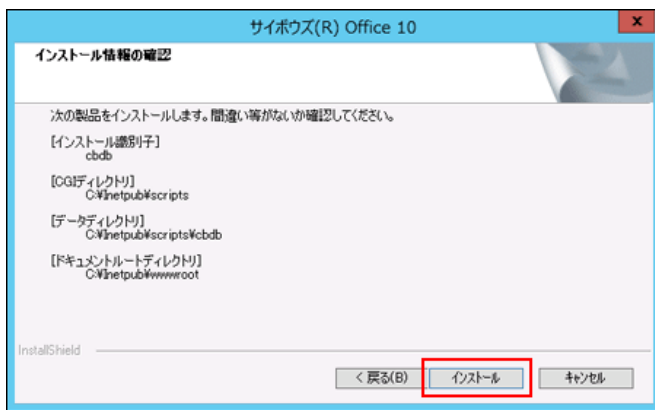


9. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、**次へ** をクリックします。

該当する製品が表示されない場合は、「バージョンアップする製品を指定する」を選択し、インストール識別子、CGIディレクトリ、ドキュメントルートディレクトリを指定してください。

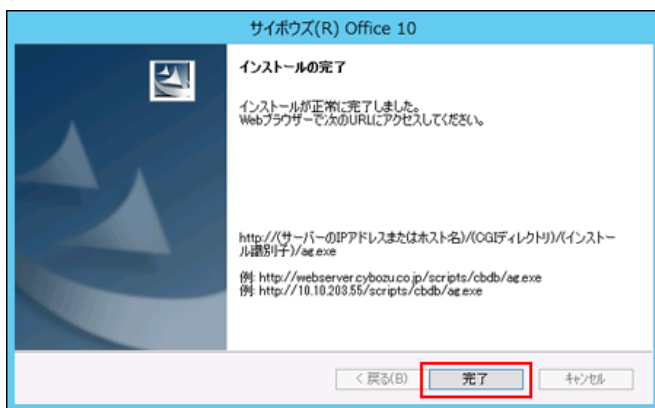


10. 設定を確認し、**インストール** をクリックします。



データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

11. 完了 をクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

[バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

バージョンアップ前のアクセスURLから、次の赤字部分が変わります。
アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ ag.exe ?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbdb/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbdb/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ ag.exe ?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbdb/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbdb/ag.exe?

2. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#) をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックしたあと、サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

3. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

4. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[ライセンスを登録する](#)

Office 8 plus デヂエをOffice 10にする

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- Office 8 plus デヂエからOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ＊ Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.exe」がリンク切れになる。
 - ＊ カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ＊ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

バージョンアップする

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Windows環境 : Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子 : cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのOffice 8 plus デヂエで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office 8の「実行環境の診断」画面の例：

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag\ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	WebサーバーにIISを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbag ● CGIディレクトリ： C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ： C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ：
デヂエ	システム実行環境の診断	

3. Office 8のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエではこの操作は不要です。

手順12で作業が完了すると、Officeのスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[☐ スケジューリングサービスを停止する](#)

4. Office 8 plus デヂエにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- 最初に「plus デヂエ」にメンテナンス時間を設定してから、Office 8にメンテナンス時間を設定します。
- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
Office 8	☐ メンテナンス時間を設定する
デヂエ 8	☐ メンテナンス時間の設定

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

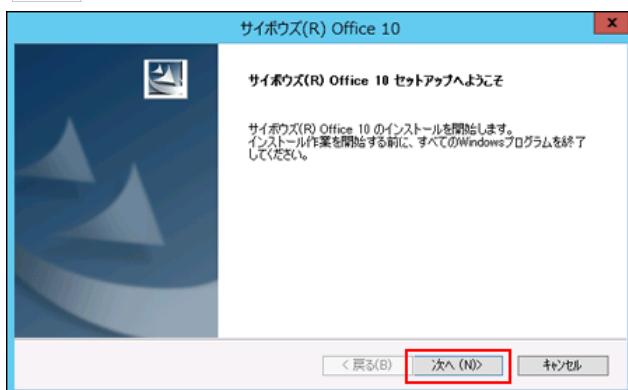
製品	バックアップの対象となるデータ
Office 8	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

6. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

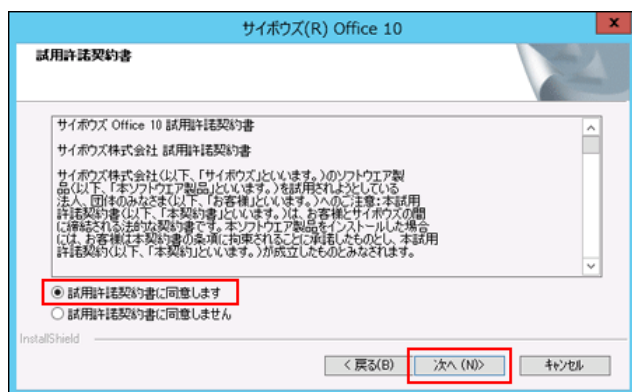
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

7. [次へ](#) をクリックします。

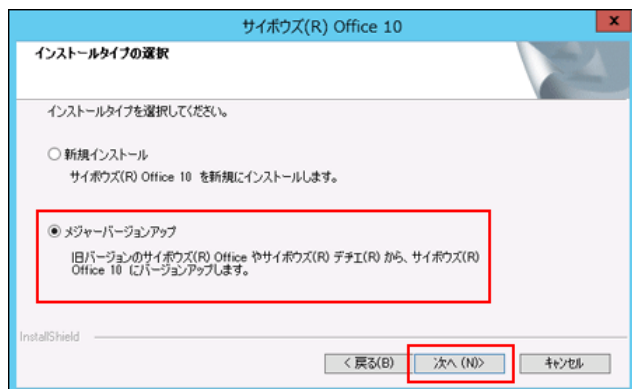


8. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、[次へ](#) をクリックします。

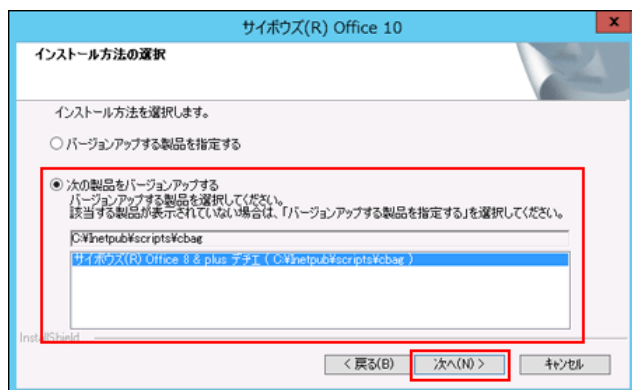
- 試用許諾契約書に同意しない場合：
[キャンセル](#) をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
[戻る](#) をクリックします。



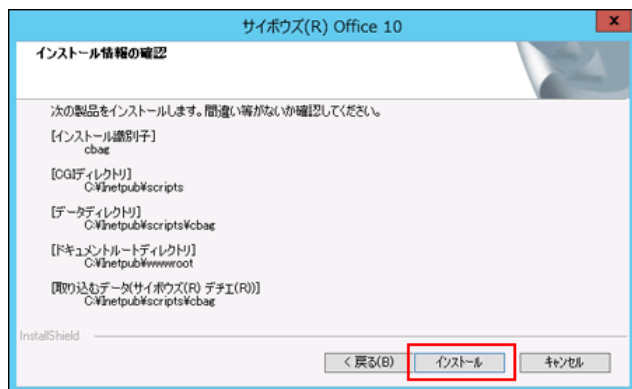
9. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、次へ をクリックします。



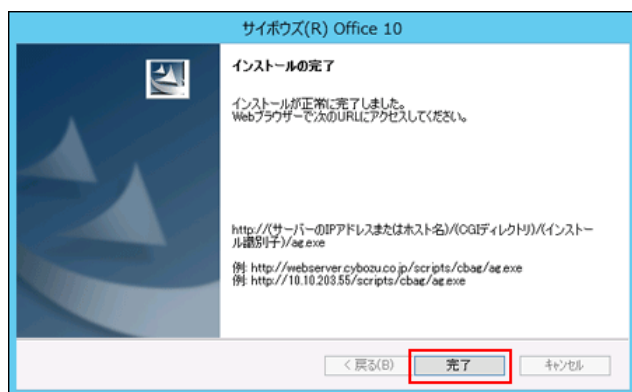
10. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、次へ をクリックします。



11. 設定を確認し、インストール をクリックします。



12. 完了 をクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

[バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#)をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックしたあと、サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

4. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

5. システムメールアカウントを設定します。

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デヂエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のOffice 8側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[システムメールアカウント](#)

6. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[ライセンスを登録する](#)

Office製品とデヂ工製品を併用している場合

Office製品とデヂ工製品を併用している場合に、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデヂ工製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ＊ カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ＊ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office 9とデヂ工製品をお使いの場合

Office 9とデヂ工製品を併用している場合、Office 9をOffice 10にバージョンアップしても、Office側にデヂ工製品のデータを取り込めません。

Office 9のみOffice 10にバージョンアップしてください。

デヂ工製品のデータをOffice 10の「カスタムアプリ」に取り込む場合は、デヂ工製品の各ライブラリのデータをDBMファイルに書き出し、Office 10に読み込むとデータを移行できます。

[よくあるご質問](#)

Step1

Office 9とデヂ工製品でユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

ユーザー情報連携は、デヂ工製品で確認できます。

[デヂ工 8：サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

Step2

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

[Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step3

お使いのデヂ工製品を最新版にバージョンアップします。

[デヂ工 8：バージョンアップする](#)



- Office 9とデヂ工製品でユーザー情報連携を行っている場合：
必ずデヂ工製品を最新版にバージョンアップしてください。
デヂ工製品が古いバージョンのままOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携が設定できなくなります。

Step4

Office 9をOffice 10にバージョンアップします。

[Office 10：Office 7～Office 9をOffice 10にする](#)

Step5

デヂ工とOffice 10で動作確認をします。



- バージョンアップ前のOffice 9とデジエ製品でユーザー情報を連携していた場合：
バージョンアップした後に、デジエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
Office 10とユーザー情報を連携してください。

サイボウズ AGやOffice 6～8とデジエ製品をお使いの場合

Office AG、Office 6、Office 7、Office 8 をOffice 10にすると、バージョンアップする過程で、デジエ製品のデータがOffice 10に取り込まれます。
デジエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。

Office製品とデジエ製品のサーバーの確認

Office 製品とデジエ製品が、同じサーバー上で運用されているかどうかを確認します。

- **同じサーバー上で運用されている場合：**
デジエ製品のデータをOffice側に取り込んで、Office 10にバージョンアップできます。
引き続き、「ユーザー情報連携の確認」や「バージョンアップ前の準備」の説明を確認してください。
- **異なるサーバー上で運用している場合：**
デジエ製品のデータをOffice側に取り込みません。
デジエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デジエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。
 デジエ 8：[サーバー／ドライブを移行する](#)

ユーザー情報連携の確認

バージョンアップの前に、お使いのOffice製品とデジエ製品がユーザー情報連携しているかどうかを確認します。

デジエのバージョン番号と、ユーザー情報連携の有無によって、注意する内容が異なります。

ユーザー情報連携は、デジエ製品で確認できます。

 デジエ 8：[サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

ユーザー情報を連携していない場合

デジエ製品のバージョンに関わらず、デジエ製品のユーザー情報は、Office 10に引き継がれません。

Office 10にバージョンアップする前に、Office製品とデジエ製品で、次の情報を同一にしてからバージョンアップすると、デジエ製品のアクセス権などの設定を引き継げます。

- ユーザーのログイン名
- Office製品のグループ名(現：組織名)とデジエ製品のグループ名

ユーザー情報を連携せずに、バージョンアップする場合は、次のページを確認してから操作してください。

 [よくあるご質問](#)

ユーザー情報を連携している場合

ユーザー情報連携している、かつ、Office 10へバージョンアップした後も、デジエ製品の利用を継続する場合の注意点は、次のとおりです。

バージョン	説明
古いデジエ (バージョン 8.0.7以	デジエが古いバージョンのまま、連携先のOffice 製品をOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携を引き継ぎません。

前)	デチエを最新版にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップしてください。
最新版のデチエ (バージョン 8.1.0)	連携先の Office製品をOffice 10にバージョンアップした後も、ユーザー情報連携が引き継がれます。
	ただし、連携先のOffice製品のインストールディレクトリのパスに全角が含まれていると、ユーザー情報を連携できません。
	Office製品のインストールディレクトリを確認してから、Office 10にバージョンアップしてください。
	☐ サイボウズ AG : サイボウズ AGの実行環境の診断
	☐ Office 6 : サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断
	☐ Office 7 : 「Office 7」の実行環境を確認する
	☐ Office 8 : 「Office 8」の実行環境を確認する

バージョンアップする

次の場合を例に説明します。

- Windows環境：
Windows Server 2012 Standard
- Office製品：
 - バージョン：8.1.6
 - インストール識別子：cbag
- デヂエ製品：
 - バージョン：8.1.0
 - インストール識別子：chdb

1. バージョンアップする環境を確認します。

バージョンアップの前に確認すること

2. お使いのOffice製品とデジエ製品で次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office製品の「実行環境の診断」画面の例：

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag\ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
デヂエ 8	 システムの実行環境の診断	WebサーバーにIISを利用している場合の例： ● インストール識別子： ■ Officeの場合： cbag ■ デヂエの場合： cbdb ● CGIディレクトリ： C:¥inetpub¥scripts ● インストールディレクトリ： ■ Officeの場合： C:¥inetpub¥scripts¥cbag ■ デヂエの場合： C:¥inetpub¥scripts¥cbdb ● ドキュメントルートディレクトリ： C:¥inetpub¥wwwroot
サイボウズ AG	 サイボウズ AGの実行環境の診断	
Office 6	 サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断	
Office 7	 「Office 7」の実行環境を確認する	
Office 8	 「Office 8」の実行環境を確認する	

3. Office製品のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエ製品ではこの操作は不要です。

手順15で作業が完了すると、Office製品のスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[☐ スケジューリングサービスを停止する](#)

4. Office製品とデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
デヂエ 8	☐ メンテナンス時間の設定
サイボウズ AG	☐ メンテナンス時間の設定
Office 6	☐ メンテナンス時間の設定
Office 7	☐ メンテナンス時間を設定する
Office 8	☐ メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	
Office 7	
Office 8	

6. デヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

[☐ デヂエ 8 : バージョンアップする](#)



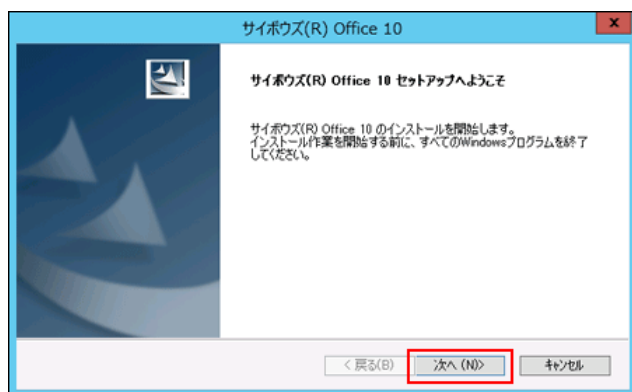
- Office 10にバージョンアップした後もデヂエ製品を利用する場合のみ、デヂエ製品を最新版にバージョンアップする必要があります。

7. Office製品をOffice 10にバージョンアップします。

サーバーマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。次のサーバーOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

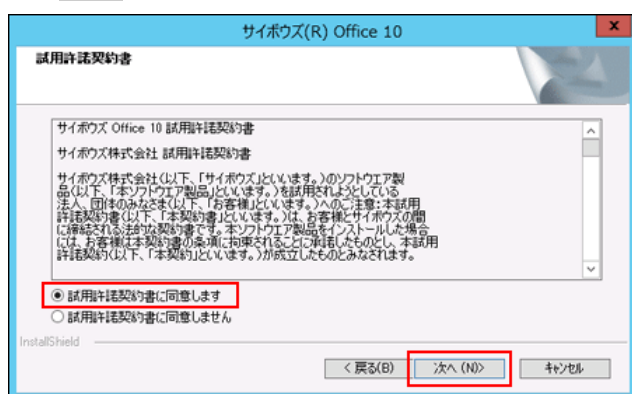
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

8. [次へ](#) をクリックします。

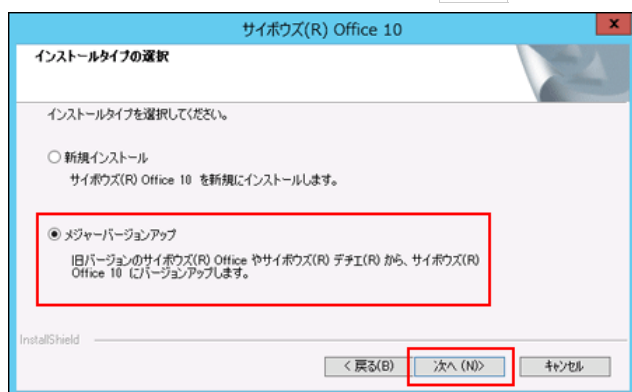


9. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、次へ をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合：
 をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
 をクリックします。

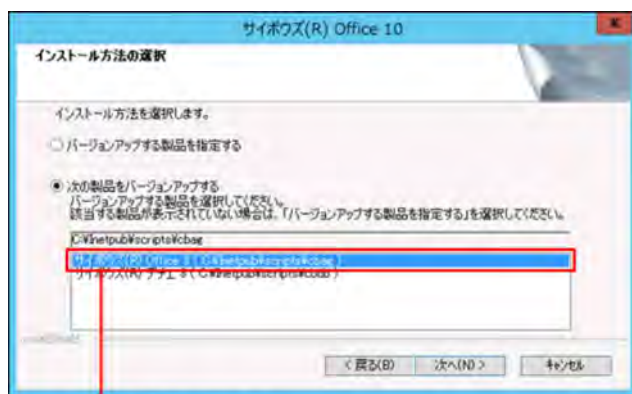


10. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、次へ をクリックします。



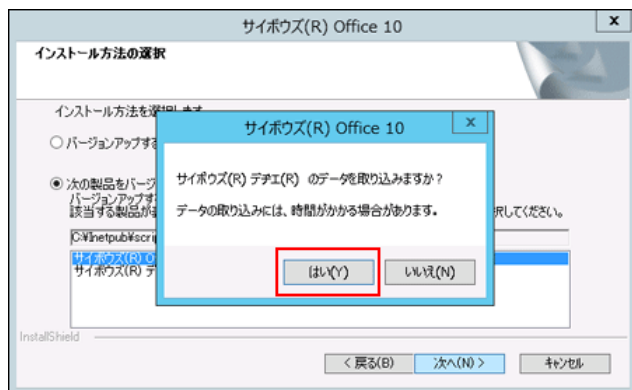
11. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、Office製品を選択してから、次へ をクリックします。

該当する製品が表示されない場合は、「バージョンアップする製品を指定する」を選択し、インストール識別子、CGIディレクトリ、ドキュメントルートディレクトリを指定してください。

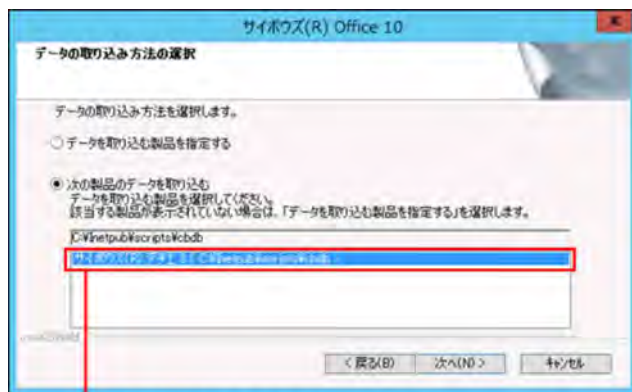


Office製品を選択します。

12. 「デヂエのデータ取り込み」確認ダイアログで、 はい をクリックします。

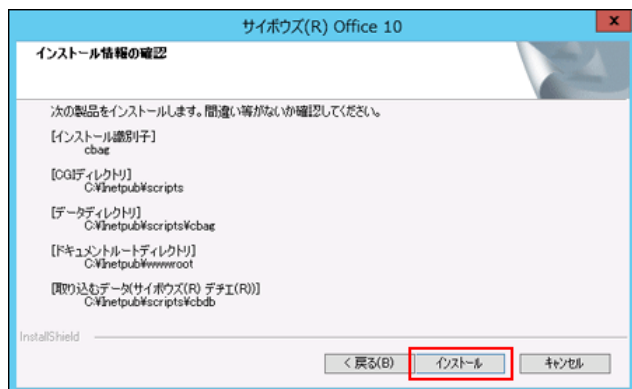


13. 「次の製品のデータを取り込む」を選択し、データを取り込むデヂエ製品を選択してから、 次へ をクリックします。

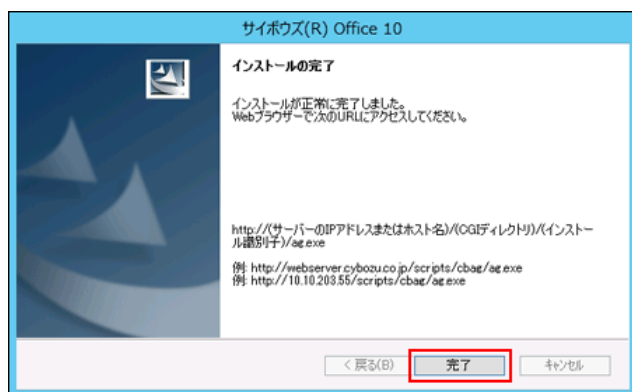


データを取り込むデヂエ製品を選択します。

14. 設定を確認し、 インストール をクリックします。



15. 完了 をクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

[📄 バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[📄 メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#)をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックし、サイボウズ Office のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

4. サイボウズ Office にログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

5. システムメールアカウントを設定します。

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デヂエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のサイボウズ Office 側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[システムメールアカウント](#)

6. ライセンスを登録します。

Office 10 の環境では、Office 10 のライセンスを登録する必要があります。

[ライセンスを登録する](#)



- バージョンアップ前の Office 製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携していた場合：

バージョンアップした後に、デヂエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。

バージョンアップした後も継続してデヂエ製品を使用する場合は、Office 10 とユーザー情報を連携してください。

[デヂエ8：サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

Office 4 以前とデヂエ製品をお使いの場合

Office 4 以前の Office 製品とデヂエ製品を併用している場合、Office 10 にバージョンアップするには、一度 Office 4 以前の Office 製品を Office 6 にバージョンアップする必要があります。

次のステップで作業します。

Office 4 以前の Office 製品とデヂエ製品が、同じサーバー上で運用されていることを確認します。

Step1



- 異なるサーバーでOffice製品とデヂエ製品を運用している場合、Step5でデヂエ製品のデータをOffice側に取り込みません。デヂエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デヂエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。

Step2

ユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

- 連携している場合：
Step3に進みます。
- 連携していない場合：
Office製品とデヂエ製品の各ユーザーのログイン名とグループ名を一致させてください。



- ユーザー情報を連携していない場合、ユーザーのログイン名とグループ名をOffice製品と一致させないままバージョンアップすると、デヂエ製品のユーザー情報が引き継がれず、アクセス権の設定などが無効になります。

Step3

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step4

デヂエ製品を、最新版にバージョンアップします。

 デヂエ 8 : [バージョンアップする](#)



- 次のすべての条件に該当する場合のみ、Step4を行います。条件に該当しない場合は、Step5に進みます。
 - Office製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携している
 - Office 10へのバージョンアップ後も「デヂエ」を引き続き利用する

Step5

Office 4以前のOffice製品を、Office 6にバージョンアップします。

 Office 6 : [サイボウズOffice 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step6

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

- バージョンアップ中にデヂエ製品のデータをOffice側に取り込むかどうかを選択してください。
- Step4を行った場合は、デヂエ製品にアクセスし、連携先の製品をOffice 10に変更してください。

 Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6～Office 8とデヂエ製品をお使いの場合](#)

Linuxの場合

Linux環境で運用している環境をOffice 10にバージョンアップする手順を説明します。

バージョンアップの前に確認すること

バージョンアップ作業の前に確認する項目について説明します。

はじめに確認すること

Office 10にバージョンアップする前に、次の項目を確認します。

項目	説明
ユーザーの権限	バージョンアップする際に、次のユーザーでサーバーマシンにログインする必要があります。 ● root権限を持つユーザー
サーバーマシンやネットワークの環境	お使いのサーバーマシンやネットワーク環境が動作環境と合っていることを確認します。 製品サイト ： 動作環境
サーバーマシンの設定日時	サーバーマシンの設定日時が、正しいかどうかを確認します。 日時が正しく設定されていないと、正常に動作しない恐れがあります。
常駐アプリケーションやプロセス	サーバーマシンで、アプリケーションのプロセスが終了していることを確認します。 常駐アプリケーションやプロセス等が起動している場合は、すべて終了してください。
お使いの環境にあったバージョンアップ方法	お使いの製品や利用環境によって、バージョンアップの手順は異なります。次のチャートを参照し、お使いの環境にあったバージョンアップ手順を参照してください。 バージョンアップのパターンの確認

バックアップデータ

Office 10にバージョンアップすると、バックアップが必要なファイルが、次のいずれかのフォルダに自動的にバックアップされます。

- (インストールディレクトリ)\%odbxbackup[バージョンアップ日時]
- (インストールディレクトリ)\%odbbackup[バージョンアップ日時]

ただし、万が一のトラブルに備え、バージョンアップ前のデータを手動でバックアップすることを推奨します。

[バックアップ](#)

バージョンアップすると、既存のテンプレートファイルは、次のフォルダに自動的にバックアップされます。
(インストールディレクトリ)\%cb5\$page%backup

ドライブの空き容量

バージョンアップするドライブのディスク容量が基準に満たない場合、バージョンアップが中止されます。
バージョンアップの前にドライブの空き容量が十分であるかどうかを確認してください。

バージョンアップに必要な容量は、次のとおりです。

バージョンアップ前の製品		
Office製品単体	Office 9以降	100MB + Officeのdataディレクトリ
	Office 8以前	100MB + Officeのdataディレクトリの半分の容量
デヂエ製品単体		100MB + (デヂエのdataディレクトリ + デヂエのfileディレクトリ) + デヂエのdataディレクトリの半分の容量
Office製品とデヂエ製品		100MB + (デヂエのdataディレクトリ + デヂエのfileディレクトリ) + デヂエのdataディレクトリの半分の容量
Office 8 plus デヂエ		半分の容量 + Officeのdata ディレクトリの半分の容量

旧版からの変更点

デジエ製品、またはOffice 9以前からOffice 10にバージョンアップする場合に、大きく変更される項目について紹介します。
新機能の紹介については、製品サイトで案内しています。

☐ 製品サイト：[「サイボウズ Office 10」の新機能](#)

■ メールの独立

Office 10にバージョンアップすると、メールが個人フォルダから独立します。

更新通知や振り分け保存の設定はそのまま引き継がれます。

■ デジエのデータの保存先

次の製品を Office 10にバージョンアップすると、「デジエ」のデータは「カスタムアプリ」に保存されます。

- Office 8以前のOffice製品とデジエ製品
- Office 8 plus デジエ
- デジエ製品

■ ケータイ

ケータイ機能もOffice 10仕様にバージョンアップされます。

Office 10のライセンスキーを準備する

次のどちらかの製品からOffice 10にバージョンアップする場合は、Office 10のライセンスキーが必要です。

- デジエ製品
- Office 9以前のOffice製品

ライセンスキーは、バージョンアップライセンスの発注、または、無償バージョンアップの申込をすると取得できます。

ライセンスキー発行は時間が掛かる場合があります。

バージョンアップの作業をする前に、お客様の利用状況に合わせて、必要な申し込みをしてください。

☐ バージョンアップライセンスと無償バージョンアップのどちらが必要か

製品サイトで詳しく案内しています。

☐ 価格／見積／購入：[旧バージョンを利用中の方](#)

☐ 無償バージョンアップが必要な場合

製品サイトの案内を見て、無償バージョンアップの申し込みが必要な方は、次のWebページから手続きをします。

☐ [無償バージョンアップの申込フォーム](#)

「よくあるご質問」でもライセンスに関する案内をしています。

☐ よくあるご質問：[サービスライセンス契約中ですが、無償バージョンアップは申し込みが必要ですか？](#)

Office 10のインストーラーを入手する

最新のインストーラーを次のページからダウンロードし、バージョンアップ先のサーバーマシンに保存します。

☐ 製品サイト：[ダウンロード](#)

お使いのOffice 10を最新版にする

お使いのOffice 10を最新版にバージョンアップする手順を説明します。

バージョンアップする

次の場合を例に説明します。

- お使いのOffice 10を最新版にする。
- Linux環境：Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子：cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

バージョンアップの前に確認すること

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ
- データディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄、「Dir」欄、および「UserDir」欄で確認できます。

DocumentRoot	<u>/usr/local/apache2/htdocs</u> ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
UserDir	<u>/var/local/cybozu/office/cbag/</u> データディレクトリ	サーバーマシン上でのデータ ディレクトリの絶対パス
Dir	<u>/usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/</u> CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

「実行環境の診断」画面の詳細は、次のページを確認してください。

バージョン	マニュアル	表記例
Office 10	 サーバーの環境を確認する	WebサーバーにApacheを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbag ● CGI ディレクトリ /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/ ● ドキュメントルートディレクトリ /usr/local/apache2/htdocs ● データディレクトリ /var/local/cybozu/office/cbag/

3. スケジューリングサービスを停止します。

手順15で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

 スケジューリングサービスを停止する

4. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。

- 「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

[メンテナンス時間を設定する](#)

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
Office 10	● (データディレクトリ)/cb5/data ● (データディレクトリ)/cb5/file

6. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

"-"は必ず付けてください。

```
su -
```

7. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例： /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

8. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

9. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。

If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.

[Y] / [N] :

10. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。

試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

11. バージョンアップするサイボウズ Officeのインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

[インストール識別子とは](#)

===== インストール識別子の設定 =====

サイボウズ製品がすでにインストールされています。

すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。

cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。

Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。

[cbag]:

12. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

===== 操作の選択 =====

この製品(cbag)に対する操作を選択してください。

1: バージョンアップする

2: インストールを中止する

[1] / [2] :

13. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。

Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

[Webサーバーの実行ユーザーとは](#)

```
===== Web サーバーの実行ユーザー名の設定=====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

14. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。

```
===== インストールの設定の確認=====
インストールの設定を確認してください。
```

```
インストール識別子:                cbag
CGIディレクトリ:                  /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:              /var/local/cybozu/office/cbag/
ドキュメントルートディレクトリ:  /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:       apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル: /etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:   /var/local/cybozu/office/cbag/uninstall_cbag
```

```
この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ) :
```

15. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認=====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

(データディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザーを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.cgi?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi?

3. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

リモートサービスを使用している場合

リモートサービスを使用している場合は、Office 10にバージョンアップしたあと、リモートサービスマネージャーで利用製品の情報更新や再登録が必要です。Office製品だけをバージョンアップしただけでは、リモートアクセスした際に画像やアイコンが表示されないことがあります。

 [よくあるご質問](#)

Office製品のみ利用している場合

Office製品のみお使いの場合は、次のステップで作業します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step2

Office製品をOffice 10にバージョンアップします。

-  Office 10 : [Office 7~Office 9をOffice 10にする](#)
-  Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする](#)
-  Office 10 : [Office 4以前の製品をOffice 10にする](#)

Step3

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step4

リモートサービスマネージャーに登録しているOffice製品の情報を更新します。

 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

デヂエ製品のみ利用している場合

デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップすると、バージョンアップ前とバージョンアップ後で製品のアクセスURLが変わります。このため、バージョンアップ後のOffice 10をリモートサービスに登録する必要があります。バージョンアップ前のデヂエ製品のリモートアクセスのURLは利用できません。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step2

デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップします。

 Office 10 : [デヂエ製品をOffice 10にする](#)

Step3

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step4

リモートサービスマネージャーに登録しているデヂエ製品の情報を、Office 10に更新します。

 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

リモートサービスの利用ユーザーに、新しいアクセスURLを連絡します。

Step5

Office 8 plus デヂエを利用している場合

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップすると、「plus デヂエ」のデータがOffice側に取り込まれます。これにより、バージョンアップ後はリモートサービスマネージャーのデヂエの登録情報は利用できないため、Step5で削除します。

リモートサービスのアクセスURLは、Office製品のアクセスURLのみ、引き続きを利用できます。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

📄 Office 10のライセンスキーを準備する

Step2

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

📄 Office 10 : [Office 8 plus デヂエをOffice 10にする](#)

Step3

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

📄 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step4

リモートサービスマネージャーに登録しているOffice 8の情報をOffice 10に更新します。

📄 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

Step5

リモートサービスマネージャーから、デヂエ製品の登録情報を削除します。

📄 リモートサービス : [サイボウズ製品を削除する](#)

Step6

リモートサービスの利用ユーザーに、Step4で更新したOffice 10のリモートアクセスURLのみ利用できることを連絡します。

Step5で削除したデヂエのリモートアクセスURLは利用できません。

Office 8 以前とデヂエ製品を利用している場合

Office 8以前のOffice製品とデヂエ製品の両方を運用している場合の手順を説明します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

📄 Office 10のライセンスキーを準備する

Step2

デヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

📄 デヂエ 8 : [バージョンアップする](#)



- Step2は、現在Office製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携し、Office 10にバージョンアップした後も、デヂエを引き続き利用する場合のみ必要な作業です。

Office 8以前のOffice製品をOffice 10にバージョンアップします。

Step3

デチ工製品のデータがOffice側に取り込まれます。

📖 Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6～8とデチ工製品をお使いの場合](#)



- Office製品とデチ工製品でユーザー情報を連携していない場合は、Office製品とデチ工製品で、各ユーザーの「ログイン名」と「グループ名」を一致させてからバージョンアップしてください。

Step4

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

📖 リモートサービス : [インストールマニュアル](#)

Step5

リモートサービスマネージャーで、Office 8の登録情報画面を表示し、製品情報をOffice 10に更新します。

📖 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

Step6

リモートサービスマネージャーで、デチ工製品の登録情報画面を表示し、製品情報を更新します。

📖 リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

サイボウズ AGやOffice 6～Office 9をOffice 10にする

サイボウズ AG、Office 6、Office 7、Office 8、Office 9 を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。

バージョンアップする

次の場合を例に説明します。

- Linux環境 : Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子 : cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGI ディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

ドキュメントルートディレクトリ		
DocumentRoot	/user/local/apache2/htdocs	Webサーバーのドキュメントルート
Dir	/user/local/apache2/cgi-bin/cbag/	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス
	CGIディレクトリ	インストール識別子
	インストールディレクトリ	

バージョン	マニュアル	表記例
サイボウズAG	サイボウズAG の実行環境の診断	Web サーバーにApache を利用している場合の例 : ● インストール識別子 : cbag ● CGIディレクトリ : /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ : /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/ ● ドキュメントルートディレクトリ : /usr/local/apache2/htdocs
Office 6	サイボウズ(R) Office の実行環境の診断	
Office 7	「Office 7」の実行環境を確認する	
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	
Office 9	製品の実行環境を確認する	

3. スケジューリングサービスを停止します。

手順13で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスを停止する](#)

4. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
サイボウズAG	メンテナンス時間の設定

● Office 6	 メンテナンス時間の設定
Office 7	 メンテナンス時間を設定する
Office 8	 メンテナンス時間を設定する
Office 9	 メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	
Office 7	
Office 8	
Office 9	

6. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

"-"は必ず付けてください。

```
su -
```

7. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例： /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

8. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

9. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

```
この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N] :
```

10. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。

試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

11. バージョンアップするサイボウズ Officeのインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

 [インストール識別子とは](#)

```
===== インストール識別子の設定=====
サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbag
```

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。
Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

```
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:
```

12. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

```
===== 操作の選択=====
この製品(cbag)に対する操作を選択してください。
1: バージョンアップする
2: アンインストールする
3: インストールを中止する
[1] / [2] / [3]:
```



- Office 9をOffice 10にする場合：
手順14に進みます。
- サイボウズ AGやOffice 6～Office 8をOffice 10にする場合：
手順13に進みます。

13. 「N」を入力し、Enterキーを押します。

```
===== デヂエのデータ取り込み=====
サイボウズ(R) デヂエのデータを取り込みますか？
データの取り込みには、時間がかかる場合があります。
[Y](はい) / [N](いいえ) :
```

14. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

[Webサーバーの実行ユーザーとは](#)

```
===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定=====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

15. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

```
===== インストールの設定の確認=====

インストール識別子:                cbag
CGIディレクトリ:                   /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:                /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
ドキュメントルートディレクトリ:    /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:         apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル: /etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:     /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ) :
```

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

16. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認=====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

[バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

メンテナンス時間内の場合、エラーが表示されます。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

 [メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザーを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

 [ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

4. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

 [ライセンスを登録する](#)

Office 4以前の製品をOffice 10にする

Office 4以前の製品をOffice 10にバージョンアップするには、お使いの環境を一度Office 6にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップする必要があります。

次のステップで作業します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step2

Office 4以前の製品を、Office 6にバージョンアップします。

 Office 6 : [サイボウズ Office 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step3

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

 Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6～Office 9をOffice 10にする](#)

デチ工製品をOffice 10にする

単体で運用しているデチ工製品をOffice 10にバージョンアップします。

デチ工のライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- デチ工製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.cgi」がリンク切れになる。
 - カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。

[よくあるご質問](#)

バージョンアップする

デチ工製品をOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- デチ工 8（バージョン 8.0.7）からバージョンアップする。
- Linux環境：Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子：cbdb

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのデチ工製品で次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

ドキュメントルートディレクトリ		
DocumentRoot	/user/local/apache2/htdocs	Webサーバーのドキュメントルート
Dir	/user/local/apache2/cgi-bin/cbdb/	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス
	CGIディレクトリ	インストール識別子
	インストールディレクトリ	

バージョン	マニュアル	表記例
DBメーカー	実行環境の診断	WebサーバーにApacheを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbdb ● CGIディレクトリ：
デチ工 3	システム実行環境の診断	
デチ工 4	システムの実行環境の診断	

デヂエ 5	 システムの実行環境の診断	● /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ： /usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb/ ● ドキュメントルートディレクトリ： /usr/local/apache2/htdocs
デヂエ 6	 システムの実行環境の診断	
デヂエ 8	 システムの実行環境の診断	

3. お使いのデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
DB メーカー	メンテナンス時間の設定は、デヂエ 4以降に搭載された機能です。
デヂエ 3	デヂエ 3以前からバージョンアップする場合は、ユーザーがデヂエにアクセスできない状態にし、手順4に進みます。
デヂエ 4	 メンテナンス時間の設定
デヂエ 5	 メンテナンス時間の設定
デヂエ 6	 メンテナンス時間の設定
デヂエ 8	 メンテナンス時間の設定

4. バージョンアップ前のデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
DBメーカー	● (インストールディレクトリ)/data ● (インストールディレクトリ)/file
デヂエ 3	
デヂエ 4	
デヂエ 5	
デヂエ 6	
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

5. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

"-"は必ず付けてください。

```
su -
```

6. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例： /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

7. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

8. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。

If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N] :

9. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。
試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

10. バージョンアップするデジエ製品のインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

 [インストール識別子とは](#)

===== インストール識別子の設定 =====

サイボウズ製品がすでにインストールされています。

すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。

cbdb

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。

Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。

[cbag]:cbdb

11. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

===== 操作の選択 =====

この製品(cbdb)に対する操作を選択してください。

1: バージョンアップする

2: インストールを中止する

[1] / [2] :

12. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。

Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

 [Webサーバーの実行ユーザーとは](#)

===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定 =====

Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。

通常は変更する必要はありません。

[apache]:

13. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

===== インストールの設定の確認 =====

インストール識別子: cbdb

CGIディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin

データディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb

ドキュメントルートディレクトリ: /usr/local/apache2/htdocs

WEBサーバーの実行ユーザー: apache

スケジューリングサービスの起動/停止ファイル: /etc/rc.d/init.d/ofss_cbdb

アンインストールの実行ファイル: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbdb

この設定でインストールします。よろしいですか？

[Y](はい) / [N](いいえ) :

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

14. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

===== バージョンアップの終了の確認=====

バージョンアップが正常に終了しました。

バージョンアップ後の作業に進みます。

[バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

バージョンアップ前のアクセスURLから、次の赤字部分が変わります。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ ag .exe?	- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbdb/ag.exe? - ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbdb/ag.exe?

2. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#)をクリックします。

サイボウズ Office 10

コンバート終了

データコンバートが完了しました。
引き続きサイボウズ Office をご利用ください。

[ホームへ](#)

コンバート結果

ID	アプリ名	コンバート結果
61	社員名簿	✓
62	日報	✓
64	クレーム対応管理	✓
65	商談報告書	✓
94	商品マスター情報管理	✓
95	総務部への依頼受付	✓
111	FAQ (サイボウズ Office 8の使い方)	✓
117	見積り依頼	✓
120	社員旅行についてのアンケート	✓
125	売上情報	✓
129	備品管理	✓
162	写真集	✓
173	サポートからの質問	✓

ID	テンプレート名	コンバート結果
159	日報テンプレート	✓
160	議事録テンプレート	✓
150	商品マスターテンプレート	✓
161	進捗管理テンプレート	✓

その他のコンバート内容	コンバート結果
ユーザーの設定	✓
グループの設定	✓
ログイン方法の設定	✓
ユーザー自身のパスワード変更許可設定	✓
パスワード制限の設定	✓
メールサーバー/メール通知の設定	✓
各ユーザーの個人設定	✓
各ユーザーの履歴データ	✓

[ホームへ](#)をクリックしたあと、サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

3. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。

- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

4. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

 [ライセンスを登録する](#)

Office 8 plus デヂエをOffice 10にする

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。
デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- Office 8 plus デヂエからOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ＊ Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.cgi」がリンク切れになる。
 - ＊ カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ＊ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

バージョンアップする

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Linux環境：Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子：cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。
[作業の前に確認すること](#)
2. お使いのOffice 8 plus デヂエで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office 8の「実行環境の診断」画面の例：

ドキュメントルートディレクトリ		
DocumentRoot	/user/local/apache2/htdocs	Webサーバーのドキュメントルート
Dir	/user/local/apache2/cgi-bin/cbag/	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス
	CGIディレクトリ	インストール識別子
	インストールディレクトリ	

バージョン	マニュアル	表記例
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	WebサーバーにApacheを利用している場合の例： ● インストール識別子： cbag ● CGIディレクトリ：

デヂエ	システム実行環境の診断	● /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ : /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag ● ドキュメントルートディレクトリ : /usr/local/apache2/htdocs
-----	-----------------------------	--

3. Office 8のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエではこの操作は不要です。

手順12で作業が完了すると、Officeのスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスを停止する](#)

4. Office 8 plus デヂエにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- 最初に「plus デヂエ」にメンテナンス時間を設定してから、Office 8にメンテナンス時間を設定します。
- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
Office 8	メンテナンス時間を設定する
デヂエ 8	メンテナンス時間の設定

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
Office 8	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

6. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

"-"は必ず付けてください。

```
su -
```

7. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例：/tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

8. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

9. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N] :

10. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。

試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

11. バージョンアップするサイボウズ Officeのインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

インストール識別子とは

===== インストール識別子の設定=====

サイボウズ製品がすでにインストールされています。

すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。

cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。

Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。

[cbag]:

12. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

===== 操作の選択=====

この製品(cbag)に対する操作を選択してください。

1: バージョンアップする

2: アンインストールする

3: インストールを中止する

[1] / [2] / [3]:

13. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。

Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

Webサーバーの実行ユーザーとは

===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定=====

Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。

通常は変更する必要はありません。

[apache]:

14. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

===== インストールの設定の確認=====

インストール識別子:	cbag
CGIディレクトリ:	/usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:	/usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
ドキュメントルートディレクトリ:	/usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:	apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル:	/etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:	/usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？

[Y](はい) / [N](いいえ) :

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

15. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

===== バージョンアップの終了の確認=====

バージョンアップが正常に終了しました。

バージョンアップ後の作業に進みます。

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? - ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#)をクリックします。



[ホームへ](#)をクリックしたあと、サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

4. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

5. システムメールアカウントを設定します

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デジエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のOffice 8側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[!\[\]\(4c6e36f99fe374bedd022e132a02cf78_img.jpg\) システムメールアカウント](#)

6. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[!\[\]\(7afe6607ce2f0303260c7c445b9c16c5_img.jpg\) ライセンスを登録する](#)

Office製品とデヂ工製品を併用している場合

Office製品とデヂ工製品を併用している場合に、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデヂ工製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ＊ カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ＊ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office 9とデヂ工製品をお使いの場合

Office 9とデヂ工製品を併用している場合、Office 9をOffice 10にバージョンアップしても、Office側にデヂ工製品のデータを取り込めません。

Office 9のみOffice 10にバージョンアップしてください。

デヂ工製品のデータをOffice 10の「カスタムアプリ」に取り込む場合は、デヂ工製品の各ライブラリのデータをDBMファイルに書き出し、Office 10に読み込むとデータを移行できます。

[よくあるご質問](#)

Step1

Office 9とデヂ工製品でユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

ユーザー情報連携は、デヂ工製品で確認できます。

[デヂ工 8 : サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

Step2

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

[Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step3

お使いのデヂ工製品を最新版にバージョンアップします。

[デヂ工 8 : バージョンアップする](#)



- Office 9とデヂ工製品でユーザー情報連携を行っている場合：
必ずデヂ工製品を最新版にバージョンアップしてください。
デヂ工製品が古いバージョンのままOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携が設定できなくなります。

Step4

Office 9をOffice 10にバージョンアップします。

[Office 10 : Office 7～Office 9をOffice 10にする](#)

Step5

デヂ工とOffice 10で動作確認をします。



- バージョンアップ前のOffice 9とデジ工製品でユーザー情報を連携していた場合：
バージョンアップした後に、デジ工製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
Office 10とユーザー情報を連携してください。

サイボウズ AGやOffice 6～8とデジ工製品をお使いの場合

Office AG、Office 6、Office 7、Office 8 をOffice 10にすると、バージョンアップする過程で、デジ工製品のデータがOffice 10に取り込まれます。
デジ工のライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。

Office製品とデジ工製品のサーバーの確認

Office 製品とデジ工製品が、同じサーバー上で運用されているかどうかを確認します。

- **同じサーバー上で運用されている場合：**
デジ工製品のデータをOffice側に取り込んで、Office 10にバージョンアップできます。
引き続き、「ユーザー情報連携の確認」や「バージョンアップ前の準備」の説明を確認してください。
- **異なるサーバー上で運用している場合：**
デジ工製品のデータをOffice側に取り込みません。
デジ工製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デジ工製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。
 デジ工 8：[サーバー／ドライブを移行する](#)

ユーザー情報連携の確認

バージョンアップの前に、お使いのOffice製品とデジ工製品がユーザー情報連携しているかどうかを確認します。
デジ工のバージョン番号と、ユーザー情報連携の有無によって、注意する内容が異なります。
ユーザー情報連携は、デジ工製品で確認できます。

 デジ工 8：[サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

■ ユーザー情報を連携していない場合

デジ工製品のバージョンに関わらず、デジ工製品のユーザー情報は、Office 10に引き継がれません。

Office 10にバージョンアップする前に、Office製品とデジ工製品で、次の情報を同一にしてからバージョンアップすると、デジ工製品のアクセス権などの設定を引き継ぎます。

- ユーザーのログイン名
- Office製品のグループ名(現：組織名)とデジ工製品のグループ名

ユーザー情報を連携せずに、バージョンアップする場合は、次のページを確認してから操作してください。

 [よくあるご質問](#)

■ ユーザー情報を連携している場合

ユーザー情報連携している、かつ、Office 10へバージョンアップした後も、デジ工製品の利用を継続する場合の注意点は、次のとおりです。

バージョン	説明
古いデジ工 (バージョン 8.0.7以 前)	デジ工が古いバージョンのまま、連携先のOffice 製品をOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携を引き継ぎません。 デジ工を最新版にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップしてください。

最新版のデヂエ (バージョン 8.1.0)	連携先の Office製品をOffice 10にバージョンアップした後も、ユーザー情報連携が引き継がれます。 ただし、連携先のOffice製品のインストールディレクトリのパスに全角が含まれていると、ユーザー情報を連携できません。 Office製品のインストールディレクトリを確認してから、Office 10にバージョンアップしてください。 サイボウズ AG : サイボウズ AGの実行環境の診断 Office 6 : サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断 Office 7 : 「Office 7」の実行環境を確認する Office 8 : 「Office 8」の実行環境を確認する
----------------------------------	---

バージョンアップする

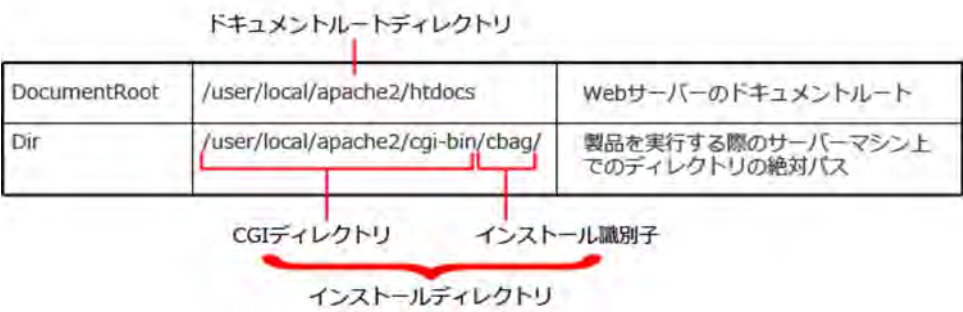
次の場合を例に説明します。

- Linux環境 :
 - Red Hat Enterprise Linux 5
- Office製品 :
 - バージョン : 8.1.6
 - インストール識別子 : cbag
- デヂエ製品 :
 - バージョン : 8.1.0
 - インストール識別子 : cbdb

- バージョンアップする環境を確認します。
[バージョンアップの前に確認すること](#)
- お使いのOffice製品とデヂエ製品で次の情報を確認します。
 - インストール識別子
 - CGIディレクトリ
 - インストールディレクトリ
 - ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office製品の「実行環境の診断」画面の例 :



バージョン	マニュアル	表記例
デヂエ 8	システムの実行環境の診断	WebサーバーにApacheを利用している場合の例 : - インストール識別子 : - Officeの場合 : cbag - デヂエの場合 : cbdb - CGIディレクトリ : /usr/local/apache2/cgi-bin/ - インストールディレクトリ : - Officeの場合 : /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
サイボウズ AG	サイボウズ AGの実行環境の診断	
Office 6	サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断	
Office 7	「Office 7」の実行環境を確認する	

Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	- デヂエの場合： /usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb - ドキュメントルートディレクトリ： /usr/local/apache2/htdocs
----------	--------------------------------------	--

3. Office製品のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエ製品ではこの操作は不要です。

手順15で作業が完了すると、Office製品のスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスを停止する](#)

4. Office製品とデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
デヂエ 8	メンテナンス時間の設定
サイボウズ AG	メンテナンス時間の設定
Office 6	メンテナンス時間の設定
Office 7	メンテナンス時間を設定する
Office 8	メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
デヂエ 8	(インストールディレクトリ)/dze/data (インストールディレクトリ)/dze/file
サイボウズ AG	(インストールディレクトリ)/cb5/data (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	
Office 7	
Office 8	

6. デヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

[デヂエ 8：バージョンアップする](#)



- Office 10にバージョンアップした後もデヂエ製品を利用する場合のみ、デヂエ製品を最新版にバージョンアップする必要があります。

7. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

"-"は必ず付けてください。

```
su -
```

8. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例： /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

9. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

10. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N] :

11. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。
試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

12. バージョンアップするOffice製品のインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

 [インストール識別子とは](#)

===== インストール識別子の設定=====

サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbdb
cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。
Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:

13. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

===== 操作の選択=====

この製品(cbag)に対する操作を選択してください。

1: バージョンアップする
2: アンインストールする
3: インストールを中止する
[1] / [2] / [3]:

14. 「Y」を入力し、Enterキーを押します。

===== デヂエのデータ取り込み=====

サイボウズ(R) デヂエのデータを取り込みますか？
データの取り込みには、時間がかかる場合があります。
[Y](はい) / [N](いいえ) :

15. データを取り込むデヂエ製品のインストールディレクトリを入力し、Enterキーを押します。

===== デヂエのインストールディレクトリの設定=====

データを取り込むサイボウズデヂエ のインストールディレクトリを設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「/usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb」が設定されます。

インストールディレクトリの確認方法
サイボウズデヂエのシステム設定の「実行環境の診断」画面のDir 欄で確認できます。
例：デヂエの実行環境が、/var/www/cgi-bin/cbdb/ の場合
インストールディレクトリは、「/var/www/cgi-bin/cbdb」になります。

[/usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb] :

16. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

 [Webサーバーの実行ユーザーとは](#)

```
===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定=====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

17. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

```
===== インストールの設定の確認=====

インストール識別子:                                cbag
CGIディレクトリ:                                   /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:                                /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
ドキュメントルートディレクトリ:                    /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:                          apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル:      /etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:                     /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ) :
```

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

18. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認=====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

 [バージョンアップ後の作業](#)

バージョンアップ後の作業

サイボウズ Officeにアクセスし、バージョンアップが完了していることを確認します。

1. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

 [メンテナンス時間を解除する](#)

2. Webブラウザーを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

3. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#)をクリックします。



[ホームへ](#)をクリックし、サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

4. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

[ログインする](#)

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

5. システムメールアカウントを設定します。

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デヂエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のサイボウズ Office側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[システムメールアカウント](#)

6. ライセンスを登録します。

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[ライセンスを登録する](#)



● バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携していた場合：

バージョンアップした後に、デヂエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
バージョンアップした後も継続してデヂエ製品を使用する場合は、Office 10とユーザー情報を連携してください。

[デヂエ8：サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

Office 4以前とデヂエ製品をお使いの場合

Office 4以前のOffice製品とデヂエ製品を併用している場合、Office 10にバージョンアップするには、一度Office 4以前のOffice製品をOffice 6にバージョンアップする必要があります。

次のステップで作業します。

Step1

Office 4以前のOffice製品とデヂエ製品が、同じサーバー上で運用されていることを確認します。



- 異なるサーバーでOffice製品とデヂエ製品を運用している場合、Step5でデヂエ製品のデータをOffice側に取り込めません。
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デヂエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。

Step2

ユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

- 連携している場合：
Step3に進みます。
- 連携していない場合：
Office製品とデヂエ製品の各ユーザーのログイン名とグループ名を一致させてください。



- ユーザー情報を連携していない場合、ユーザーのログイン名とグループ名をOffice製品と一致させないままバージョンアップすると、デヂエ製品のユーザー情報が引き継がれず、アクセス権の設定などが無効になります。

Step3

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーを準備する](#)

Step4

デヂエ製品を、最新版にバージョンアップします。

 デヂエ 8 : [バージョンアップする](#)



- 次のすべての条件に該当する場合のみ、Step4を行います。条件に該当しない場合は、Step5に進みます。
 - Office製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携している
 - Office 10へのバージョンアップ後も「デヂエ」を引き続き利用する

Step5

Office 4以前のOffice製品を、Office 6にバージョンアップします。

 Office 6 : [サイボウズOffice 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step6

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

- バージョンアップ中にデヂエ製品のデータをOffice側に取り込むかどうかを選択してください。
- Step4を行った場合は、デヂエ製品にアクセスし、連携先の製品をOffice 10に変更してください。

 Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6～Office 8とデヂエ製品をお使いの場合](#)